

諏訪の景気動向

平成24年 2月

(平成24年 1月末 D・I調査)

平成24年 2月20日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 24 年 1 月末）

「平成 24 年 1 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 181 社のご協力を得て行った平成 24 年 1 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 22.1$ と前回調査時（平成 23 年 10 月末、以下同）の $\Delta 5.4$ から 16.7 ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。

製造業の業況判断D Iは $\Delta 21.7$ と前回調査時の $\Delta 4.6$ から 17.1 ポイントの悪化、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の同D Iも観光業の落ち込みを主因に $\Delta 23.1$ と前回調査時の $\Delta 7.6$ から 15.5 ポイントの悪化となった。一方、「3 ヶ月後」の業況予想D Iは、製造業が $\Delta 8.6$ （前回調査時 $\Delta 22.4$ ）、非製造業が $\Delta 13.5$ （前回調査時 $\Delta 35.9$ ）といずれも水面下ではあるものの幾分改善傾向が見込まれている。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」企業 17.1%、「悪化」企業 38.8%で同D Iは $\Delta 21.7$ と前回調査時の $\Delta 4.6$ から 17.1 ポイント悪化してマイナス幅が拡大した。また、「前年同期」と比べた業況判断D Iでは、「悪化」企業の割合が 42.6%と最も多くなっている。また、「3 ヶ月後」の受注予想D Iでは「増加」企業 16.3%、「減少」企業 26.4%で同D Iは $\Delta 10.1$ と前回調査時の $\Delta 24.3$ から水面下ではあるものの幾分改善している。業種別の「3 ヶ月前」と比べた受注状況D Iでは、「輸送用機械」が前回調査時の 38.5 から 69.8 ポイント悪化し $\Delta 31.3$ 、「金属製品」は前回調査時の 6.3 から 34.9 ポイント悪化し $\Delta 28.6$ と大幅なマイナス転換となっている。

ヒアリング調査では、足元の受注の弱含み感とコストダウン要請の強化が多くきかれる。また、先行きに関しても、大手家電メーカーの収益状況が円高や世界経済の減速、また新興国メーカーとの価格競争等により大幅に悪化しており、今後どのような形でその影響が出るのかを危惧する企業が多い。

商業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「横這」店舗が 80.0%と最も多いものの、「好転」店舗が 20.0%あり同D Iは 20.0 と前回調査時の $\Delta 5.9$ からプラスに転じた。食料品ではキャベツなどの葉物野菜の高値が続き、家電店では薄型テレビの需要減少が続いているものの、冬物衣料は気温の低下から婦人物を中心に堅調な動きとなった。また、自動車販売では諏訪地方の 1 月の車庫証明件数（軽自動車除く）は 885 台と、エコカー補助金復活や低燃費車の新車発売の効果もあり前年同月に比べ+81 台（+10.1%）の増加となった。

観光・サービス業は、ウィンターシーズンを迎え観光の端境期となったことから「3 ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 61.9$ と落ち込んだ。また、地域のスキー場への入り込み客数は施設により増減区々となっている。2 月初旬には 4 季ぶりに御神渡りが出現し、全国的に報道がなされたこともあり観光客の増加が期待される。なお、御神渡りの出現を 2 月に確認したのは、昭和 57 年以来 30 年ぶりである。

また、春の観光シーズンを迎える「3 ヶ月後」の宿泊客数予想D Iは 5.0、業況予想D Iは 0.0 と前回調査時から回復が見込まれているものの、客単価予想D Iは $\Delta 9.5$ と水面下のままととなっている。

建設業の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは△12.5と前回調査時の△20.0から引き続き水面下での推移となっている。また、「3ヶ月前」と比べて「業況」、「受注状況」、「外注発注量」が「好転」した企業はなく厳しい環境が続いている。

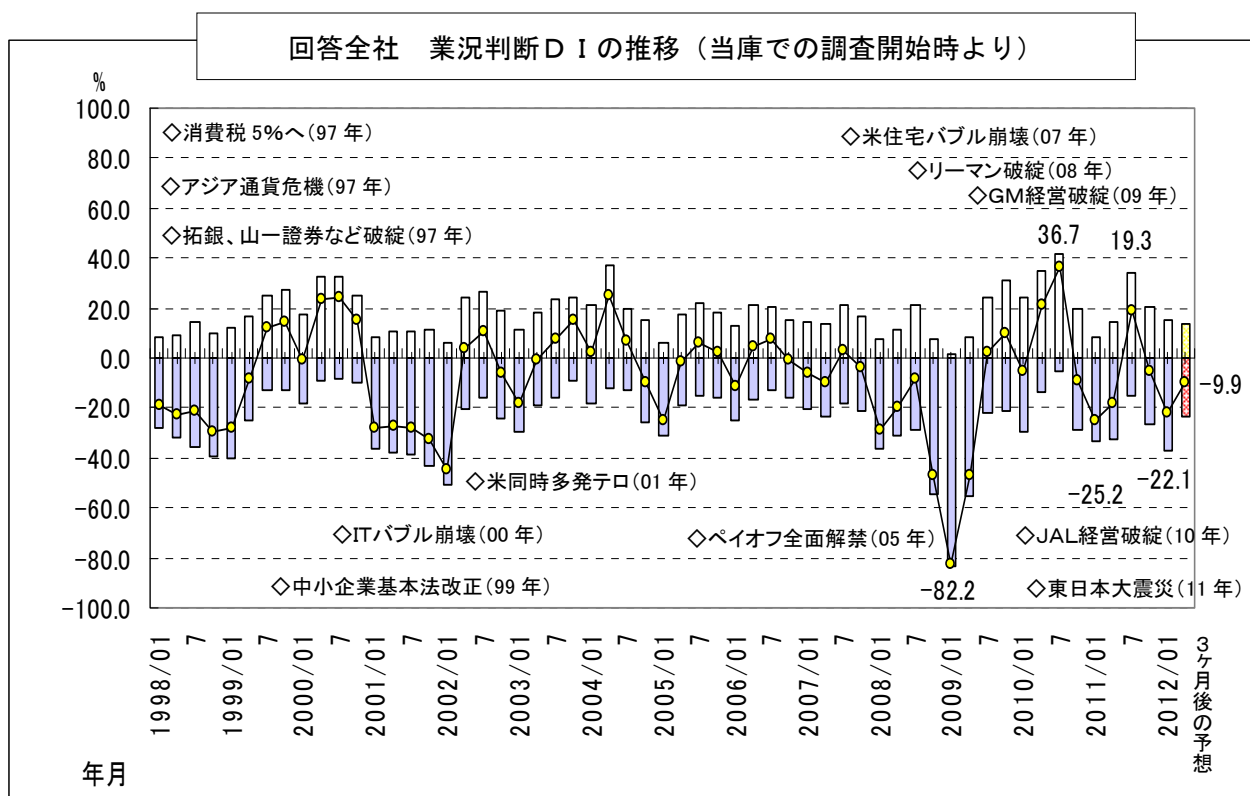
諏訪地方の平成23年12月の新設住宅着工戸数は90戸と前年同月の103戸に比べ△13戸(△12.6%)の減少となった。住宅エコポイントが「平成23年度第3次補正予算」で復活したものの、ポイントが半減したこともあり着工戸数等への大きな影響はみられない。

1月に地元業者が受注した県関係の公共工事は14件136百万円で、平成23年4月～平成24年1月の累計契約は166件3,126百万円と前年同期累計比で件数は△11件、契約金額は△729百万円の減少となった。

雇用状況は、平成23年12月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を+0.18ポイント上回り0.76倍となっている。また、長野県の同倍率は0.76倍、全国の同倍率は0.71倍であった。

なお、諏訪地域の12月の新規求人数(全数)は1,172人で前年同月比+216人(+22.6%)の増加、新規求職者数は1,095人で前年同月比△133人(△10.8%)の減少となっている。産業別の前年同月比の新規求人数は建設業が+107.3%、飲食店・宿泊業が+101.6%、その他サービス業が+101.1%それぞれ増加したが、運輸業では△67.3%減少した。また、1件10人以上の人員整理は0件で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は83人と前年同月より+23人、前月より+9人増加した。

なお、今春卒業予定の高校新卒者の就職内定率(平成23年12月末現在)は、長野県全体が85.5%、南信ブロックは全県を幾分上回る90.2%となっている。



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（181社）の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業が14.9%、「横這」企業が48.1%、「悪化」企業が37.0%で同DIは△22.1と、前回調査時の△5.4から16.7ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。

製造業の業況判断DIは「好転」企業17.1%、「悪化」企業38.8%で同DIは△21.7と前回調査時の△4.6から17.1ポイントマイナス幅が拡大し、2期連続の水面下での推移となった。

また、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは、観光・サービス業の落ち込みを主因に△23.1と前回調査時の△7.6から15.5ポイントの悪化となった。

産業別業況表

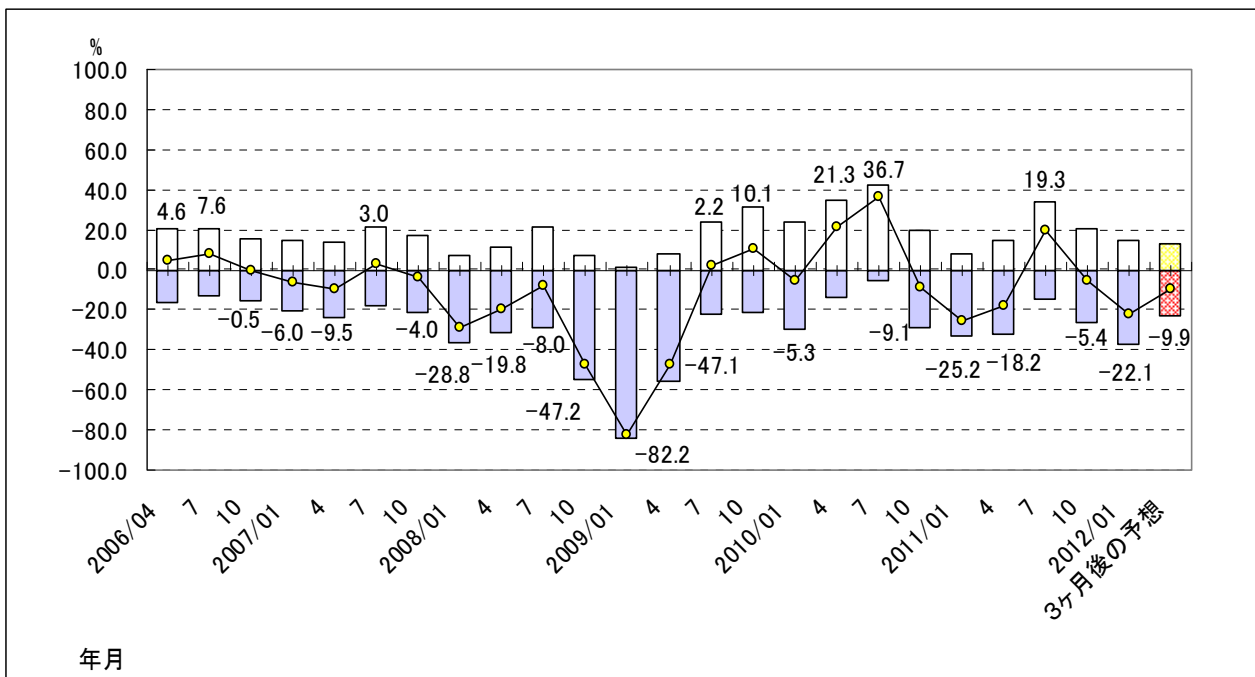
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	181	14.9	48.1	37.0	-22.1	181	17.1	40.3	42.5	-25.4	181	13.3	63.5	23.2	-9.9
製造業	129	17.1	44.2	38.8	-21.7	129	20.9	36.4	42.6	-21.7	129	14.7	62.0	23.3	-8.6
非製造業	52	9.6	57.7	32.7	-23.1	52	7.7	50.0	42.3	-34.6	52	9.6	67.3	23.1	-13.5
商業(大型店)	15	20.0	80.0	0.0	20.0	15	0.0	40.0	60.0	-60.0	15	0.0	80.0	20.0	-20.0
建設業	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	6.3	56.3	37.5	-31.2	16	6.3	62.5	31.3	-25.0
観光・サービス	21	9.5	19.0	71.4	-61.9	21	14.3	52.4	33.3	-19.0	21	19.0	61.9	19.0	0.0

自社業況判断DIの推移

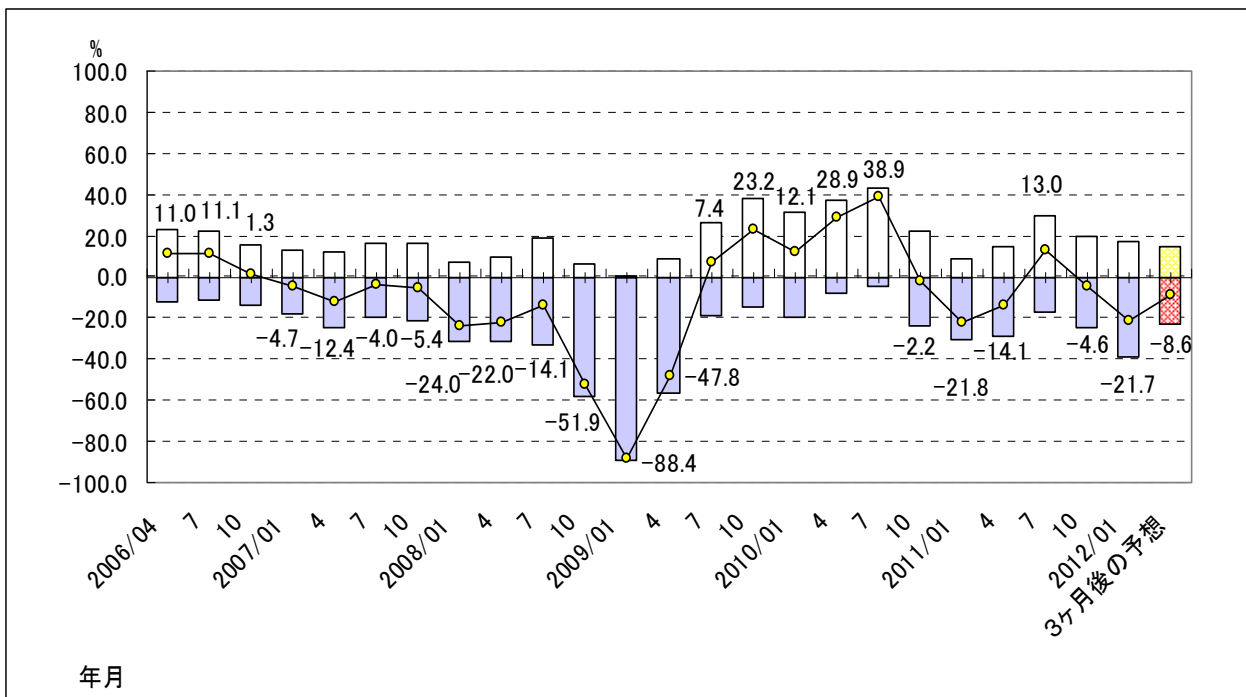
●回答全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



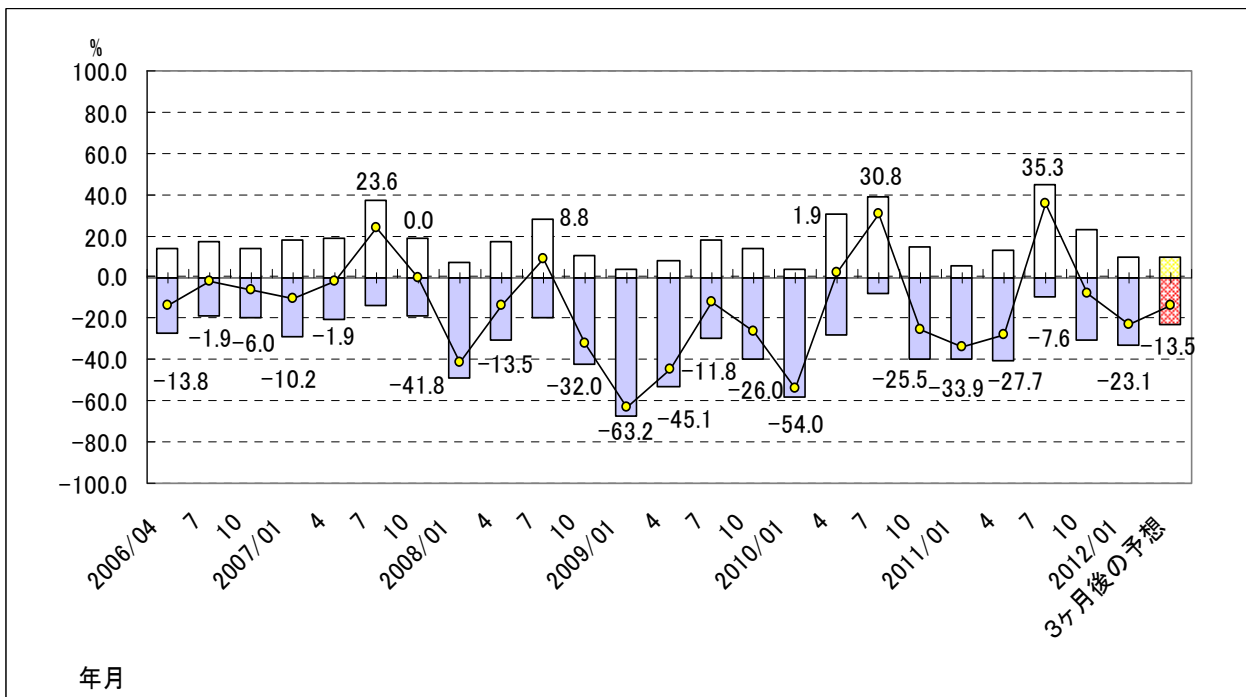
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業17.1%、「悪化」企業38.8%で同DIは△21.7と、前回調査時の△4.6から17.1ポイント悪化してマイナス幅が拡大した。また、「前年同期」と比べた業況判断DIでは、「悪化」企業の割合が42.6%と最も多くなっている。なお、「3ヶ月後」の業況予想DIでは「横這」とする企業が62.0%と最も多いものの、「好転」企業14.7%、「悪化」企業23.3%で同DIは△8.6と水面下ではあるものの前回調査時の△22.4から13.8ポイント回復した。

収益性DIは「3ヶ月前」との比較では△29.4と前回調査時の△15.4からマイナス幅は拡大しているものの、「3ヶ月後」の収益性予想DIは△17.1と反転とまではいかないものの下げ止りが見込まれている。

「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは△27.9と、前回調査時の△9.3から18.6ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。また、「3ヶ月後」の受注予想DIでは「増加」企業16.3%、「減少」企業26.4%で同DIは△10.1と、前回調査時の△24.3から水面下ではあるものの改善している。

規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、全ての規模で前回調査時から悪化した。前回調査時からの悪化幅は「100人以上企業」が21.1ポイント、「30～99人企業」が16.7ポイント「1～29人企業」が15.8ポイントと規模が大きいほど悪化幅が大きくなった。

業種別（主要5業種）の「3ヶ月前」と比べた業況判断では、一般機械は「好転」、「横這」、「悪化」の割合が拮抗するなど景況感は企業により区々となっている。また、電気機械の同DIは△42.3と前回調査時の△12.0から30.3ポイント悪化し、5業種の中で最もマイナス幅が大きくなっている。なお、輸送用機械の同DIは△18.8と前回調査時の30.8から49.6ポイントの大幅悪化となり、これまでの改善傾向に一服感がみられる。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	129	17.1	44.2	38.8	-21.7	129	20.9	36.4	42.6	-21.7	129	14.7	62.0	23.3	-8.6	
規模	1～29人	63	14.3	46.0	39.7	-25.4	63	22.2	34.9	42.9	-20.7	63	9.5	60.3	30.2	-20.7
	30～99人	42	21.4	42.9	35.7	-14.3	42	19.0	40.5	40.5	-21.5	42	23.8	57.1	19.0	4.8
	100人～	24	16.7	41.7	41.7	-25.0	24	20.8	33.3	45.8	-25.0	24	12.5	75.0	12.5	0.0
分類	金属製品製造業	14	28.6	21.4	50.0	-21.4	14	7.1	28.6	64.3	-57.2	14	7.1	64.3	28.6	-21.5
	一般機械器具製造業	32	28.1	40.6	31.3	-3.2	32	28.1	37.5	34.4	-6.3	32	15.6	62.5	21.9	-6.3
	電気機械器具製造業	26	7.7	42.3	50.0	-42.3	26	26.9	23.1	50.0	-23.1	26	7.7	69.2	23.1	-15.4
	輸送用機械器具製造業	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	16	18.8	43.8	37.5	-18.7	16	6.3	68.8	25.0	-18.7
	精密機械器具製造業	13	15.4	46.2	38.5	-23.1	13	15.4	53.8	30.8	-15.4	13	23.1	61.5	15.4	7.7

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断は「好転」した企業が28.6%あるものの、「悪化」した企業が50.0%あり、同D Iは $\Delta 21.4$ と前回調査時の $\Delta 6.3$ から15.1ポイント悪化した。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「悪化」を予想する企業が28.6%あり、同D Iは $\Delta 21.5$ と5業種の中で最も厳しい見方となっている。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断では「好転」企業28.1%、「横這」企業40.6%、「悪化」企業31.3%と企業により景況感は区々となっており、「前年同期比」でも同様の傾向がみられる。なお、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 3.2$ と前回調査時の $\Delta 8.6$ からプラス転換はしていないものの、5業種のなかで唯一改善した。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断では「悪化」企業が50.0%で同D Iは $\Delta 42.3$ と、前回調査時の $\Delta 12.0$ から30.3ポイント悪化し5業種の中で最もマイナス幅が大きくなっている。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「横這」企業が69.2%を占め、回復傾向は見込まれていない。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは、「横這」企業の割合が56.3%と5業種の中で最も多いものの、同D Iは $\Delta 18.8$ と前回調査時の30.8から49.6ポイントの大幅悪化となった。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iも前回調査時の0.0から18.7ポイント悪化するなど、これまでの改善傾向に一服感がみられる。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前比」、「前年同期比」とも「横這」とする企業割合が最も多く、弱含みの横這い状態が続いている。一方、先行きに関して、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「好転」企業23.1%、「悪化」企業15.4%で同D Iは7.7と前回調査時の $\Delta 18.2$ から25.9ポイント回復し、5業種の中で唯一プラス転換している。

②規模別業況

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは全ての規模で前回調査から悪化し、その悪化幅は規模が大きいほど大きかった。一方、「3ヶ月後」の業況予想では各規模とも同D Iは改善している。改善幅は「1~29人企業」が20.3ポイント、「30~99人企業」が11.9ポイント、「100人以上企業」が3.8ポイントと、業況予想では規模の小さい企業ほど改善幅が大きくなった。「1~29人企業」の業況予想D Iは依然として水面下であるものの、「30~99人企業」の同D Iはプラスに転換した。

③受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は「増加」企業 17.8%、「減少」企業 45.7%で同D Iは△27.9と、前回調査時の△9.3から 18.6ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。また、「3ヶ月後」の受注予想D Iでは「不変」企業の割合が 57.4%と最も多いものの、「増加」企業 16.3%、「減少」企業 26.4%で同D Iは△10.1と、前回調査時の△24.3から水面下ではあるものの改善している。

規模別の受注状況では「1～29人企業」の 50.8%で「3ヶ月前」に比べ受注が「減少」したとして、同D Iは△34.9と前回調査時の△11.5から 23.4ポイント悪化した。また、「前年同期比」でも「1～29人企業」のマイナス幅が一番大きく、次に「30～99人企業」、「100人以上企業」となり、規模が大きくなるほどマイナス幅は小さくなっている。一方、「3ヶ月後」の受注予想では「1～29人企業」の同D Iは△19.0とマイナスながらも前回調査時の△45.0から 26.0ポイントの改善、「30～99人企業」では前回調査時の△7.2から 12.0ポイント改善し 4.8とプラス転換したものの、「100人以上企業」では逆に前回調査時の△3.9から△12.5へと 8.6ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。

業種別（主要5業種）の「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは、全ての業種でマイナスとなった。なかでも、「輸送用機械」の同D Iは前回調査時の 38.5から 69.8ポイント悪化し△31.3、「金属製品」の同D Iは前回調査時の 6.3から 34.9ポイント悪化し△28.6と、大幅なマイナス転換となっている。一方、「一般機械」では 28.1%の企業が「好転」したとして同D Iは△9.4と、水面下は脱していないものの前回調査時の△20.0から幾分改善した。また、「前年同期比」の受注状況D Iでは、「金属製品」で「増加」した企業はなく、同D Iは△64.3と大幅なマイナスに落ち込んでいる。なお、「3ヶ月後」の受注予想D Iでは「不変」とする企業割合が各業種とも最も多いものの、「精密機械」は「増加」企業 23.1%、「悪化」企業 15.4%で同D Iは 7.7と前回調査時の△27.3から唯一プラスに転じている。

業種別・規模別受注状況表

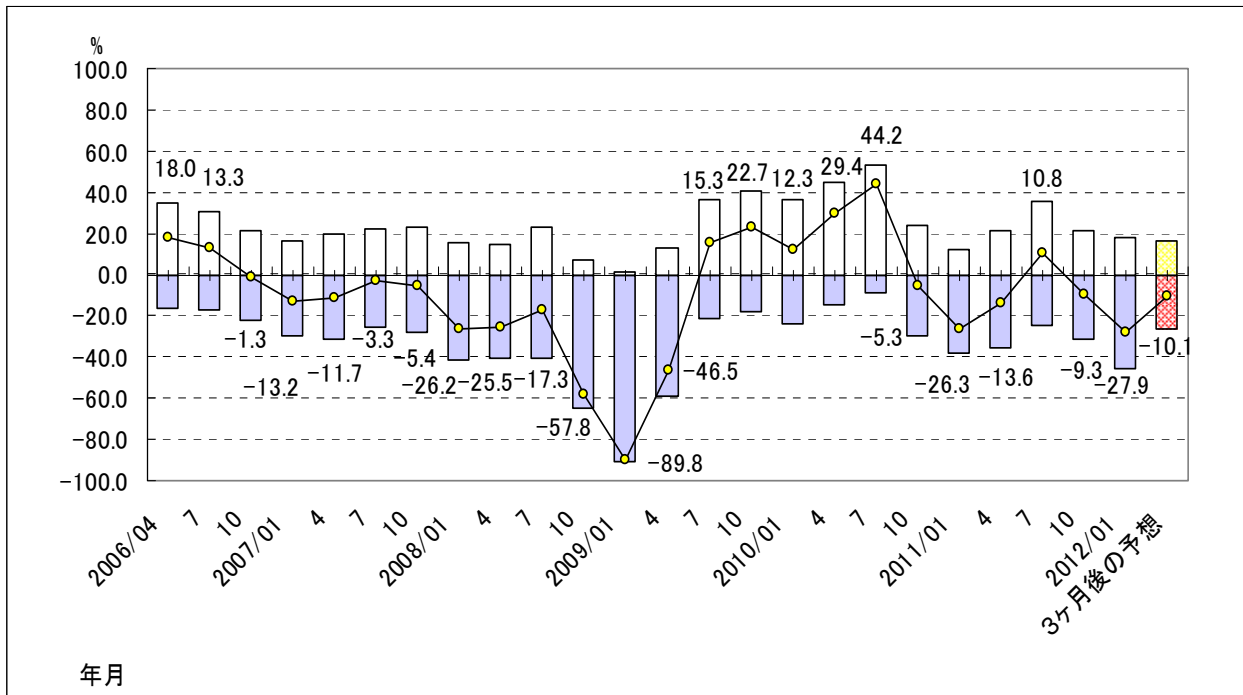
表-3

		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		129	17.8	36.4	45.7	-27.9	129	20.9	33.3	45.7	-24.8	129	16.3	57.4	26.4	-10.1
規模	1～29人	63	15.9	33.3	50.8	-34.9	63	19.0	30.2	50.8	-31.8	63	14.3	52.4	33.3	-19.0
	30～99人	42	19.0	38.1	42.9	-23.9	42	19.0	42.9	38.1	-19.1	42	26.2	52.4	21.4	4.8
	100人～	24	20.8	41.7	37.5	-16.7	24	29.2	25.0	45.8	-16.6	24	4.2	79.2	16.7	-12.5
中分類	金属製品製造業	14	14.3	42.9	42.9	-28.6	14	0.0	35.7	64.3	-64.3	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
	一般機械器具製造業	32	28.1	34.4	37.5	-9.4	32	31.3	31.3	37.5	-6.2	32	12.5	59.4	28.1	-15.6
	電気機械器具製造業	26	15.4	38.5	46.2	-30.8	26	30.8	23.1	46.2	-15.4	26	11.5	65.4	23.1	-11.6
	輸送用機械器具製造業	16	12.5	43.8	43.8	-31.3	16	18.8	31.3	50.0	-31.2	16	12.5	56.3	31.3	-18.8
	精密機械器具製造業	13	23.1	30.8	46.2	-23.1	13	23.1	30.8	46.2	-23.1	13	23.1	61.5	15.4	7.7

製造業の受注状況D Iの推移

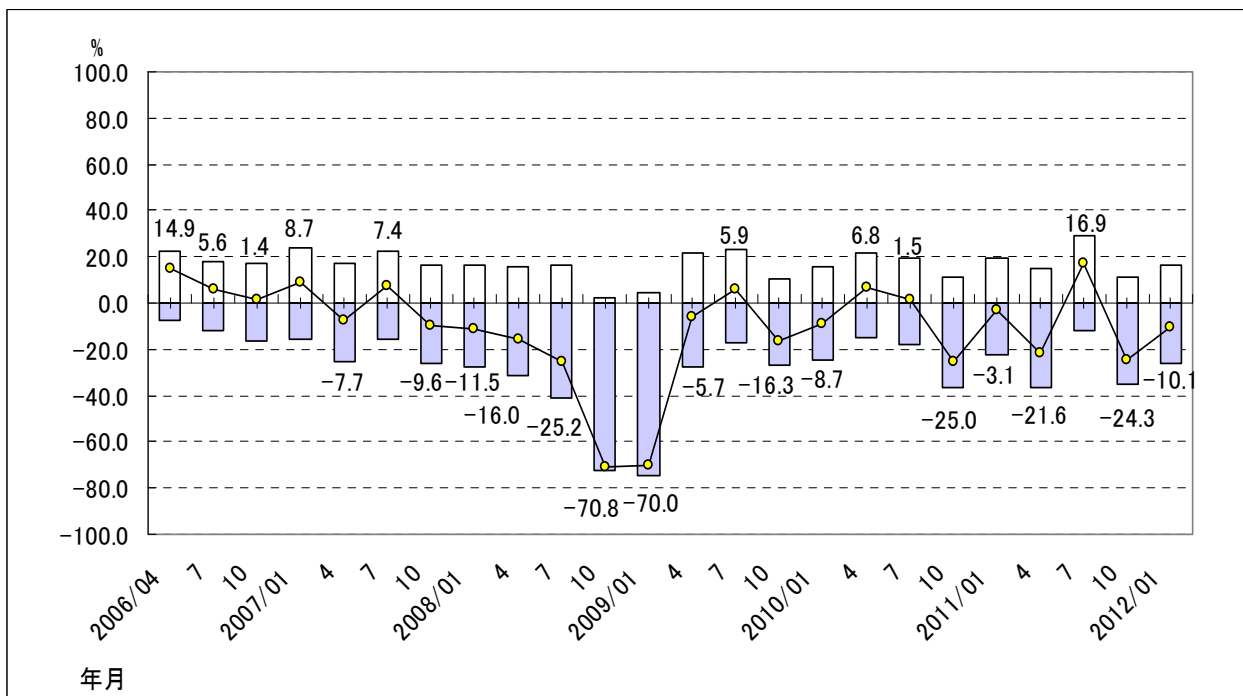
●製造業全社：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー4



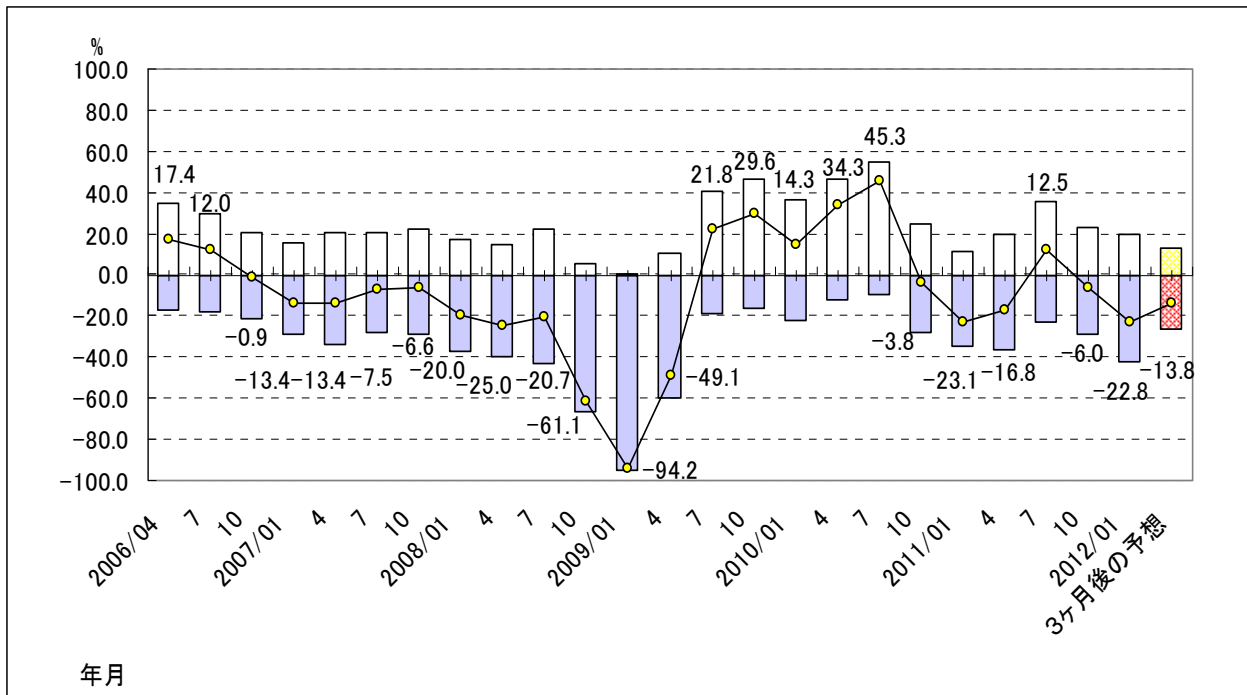
●製造業全社：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー5



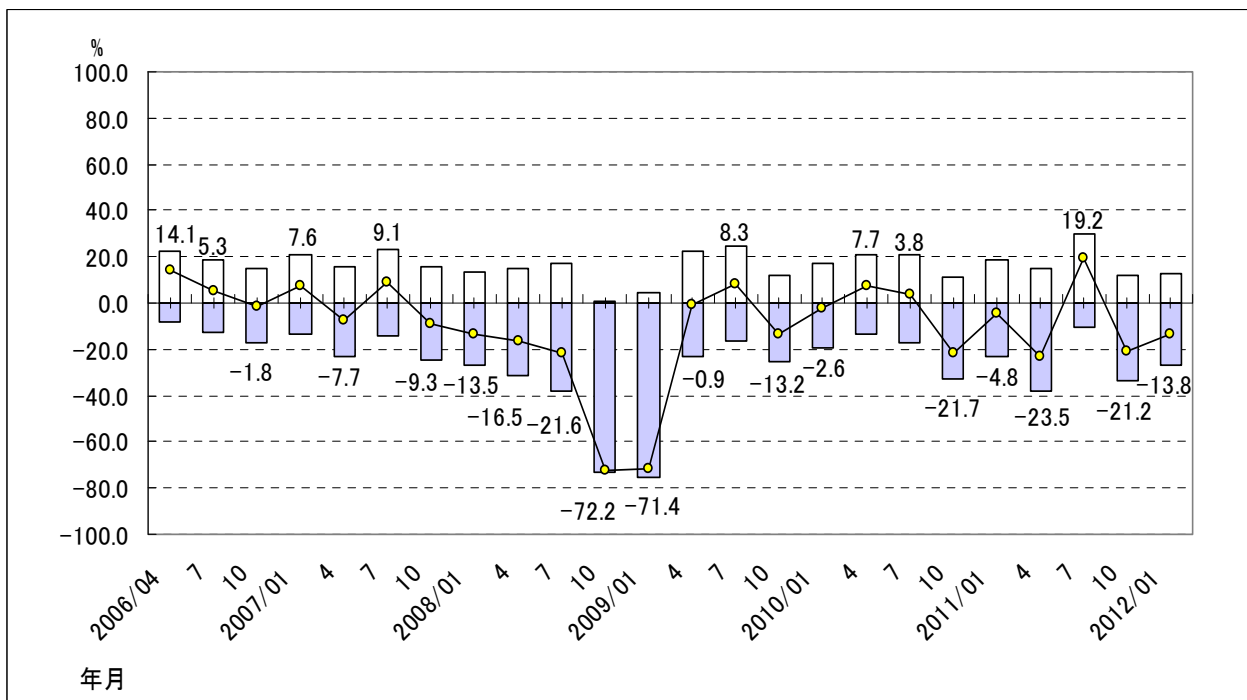
●製造業 主要5業種：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

①商業

諏訪地方の1月の天候は、強い寒気が南下するなど冬型の気圧配置が強まり、厳しい冷え込みとなる日が多かった。食料品では葉物野菜の高値が続き、家電店では薄型テレビの需要減少が続いているものの、冬物衣料は気温の低下から婦人物を中心に堅調な動きとなり、自動車販売ではエコカー補助金復活の効果がきかれた。

- 食料品 天候不順によるキャベツなどの葉物野菜の高値が続き、比較的価格の安定しているキノコ類の動きが堅調となった。冷え込みから鍋物食材は昨年を上回った。
- 衣料品 気温の低下から、婦人物のダウンコートやブルゾンの動きが良かった。
- 自動車 諏訪地方の1月の車庫証明件数（軽自動車除く）は885台と、エコカー補助金復活の効果もあり前年同月に比べ+81台（+10.1%）の増加となった。
- 家電店 薄型テレビの需要減少を補うため、太陽光発電やスマートフォン販売への注力がきかれる。
- ホームセンター 厳しい冷え込みから、住関連ではあったか寝具の売れ行きが伸びた。

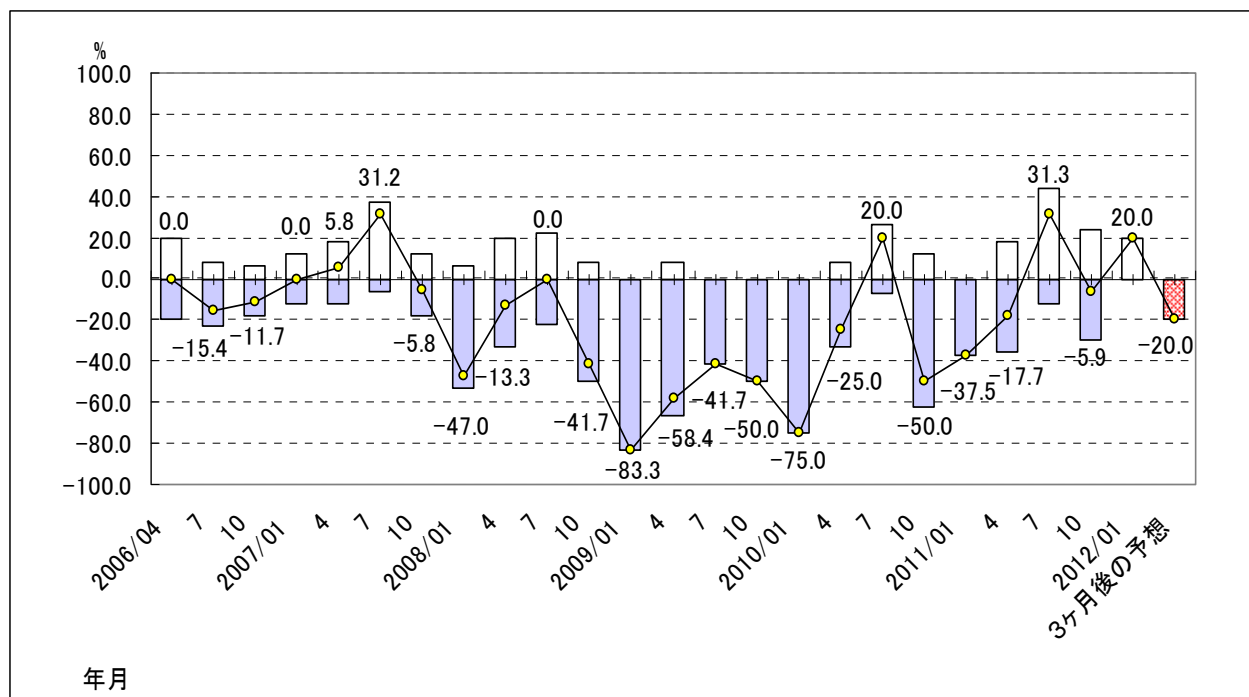
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	15	20.0	80.0	0.0	20.0	15	0.0	40.0	60.0	-60.0	15	0.0	80.0	20.0	-20.0
客単価	15	0.0	80.0	20.0	-20.0	15	0.0	60.0	40.0	-40.0	15	0.0	100.0	0.0	0.0
来店客数	15	0.0	53.3	46.7	-46.7	15	0.0	33.3	66.7	-66.7	15	0.0	60.0	40.0	-40.0

●商業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

ウィンターシーズンを迎え観光の端境期となったことから、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは△61.9と落ち込んだ。また、「前年同期」と比べた業況判断D Iは△19.0と前回調査時の42.9から61.9ポイントの大幅な悪化となった。なお、昨秋の観光シーズンは東北方面からの団体客の振替需要等もあり入り込み客数は好調であったが、冬季に入り例年同様に弱含んでいる。

また、春の観光シーズンを迎える「3ヶ月後」の宿泊客数予想D Iは5.0、業況予想D Iは0.0と今回調査時から回復が見込まれているものの、客単価予想D Iは△9.5と水面下のままとまっている。

- 上諏訪温泉 観光の端境期となり、年末年始や休日以外の宿泊客数は弱含んだ。一方、2月初旬には4季ぶりに御神渡りが出現し、観光客の増加が期待されている。なお、御神渡りの出現を2月に確認したのは、昭和57年以来30年ぶりである。
- 蓼科・白樺湖・スキー場への入り込みは、施設により増減区々となっている。宿泊者数は年末車山方面ほか年始は堅調だったが、1月下旬のまとまった雪で弱含んだとの声がかかる。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた1月の参拝者数は約452千人と、前年同月比約+7千人の増加となった。正月三が日以降も、休日を中心に参拝者で賑った。

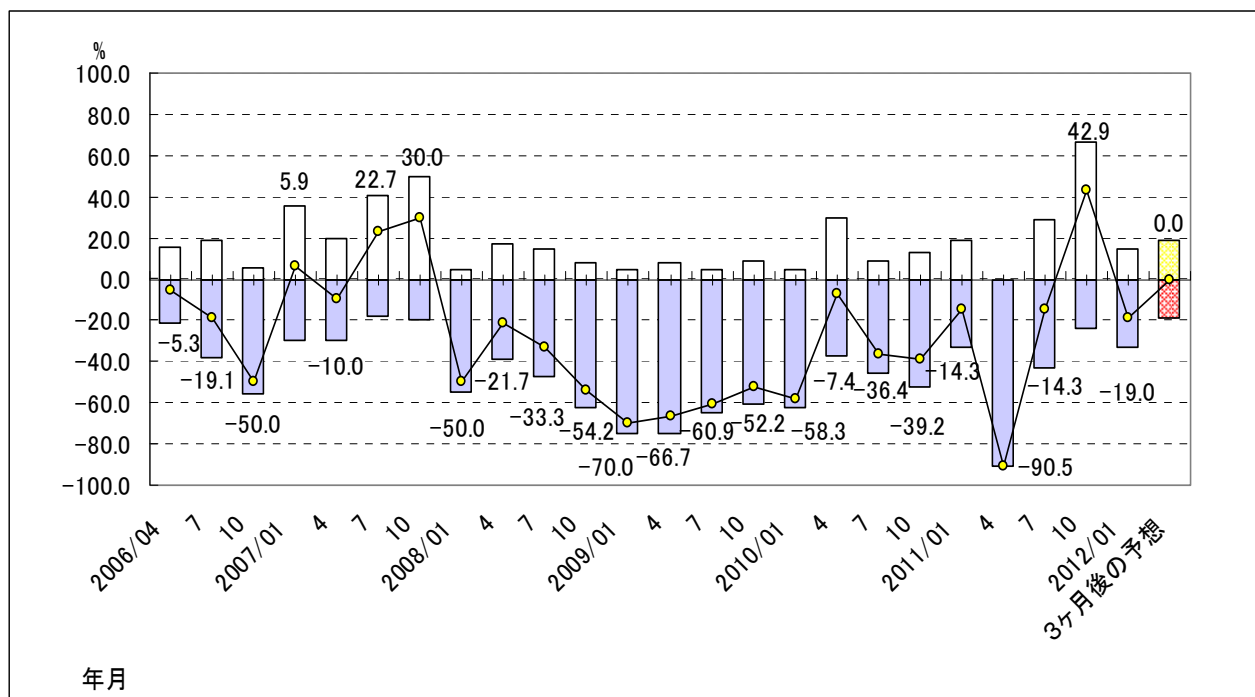
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	21	9.5	19.0	71.4	-61.9	21	14.3	52.4	33.3	-19.0	21	19.0	61.9	19.0	0.0
客単価	21	9.5	47.6	42.9	-33.4	21	9.5	71.4	19.0	-9.5	21	9.5	71.4	19.0	-9.5
宿泊客数	20	10.0	15.0	75.0	-65.0	20	20.0	40.0	40.0	-20.0	20	30.0	45.0	25.0	5.0

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-9



3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは△12.5と前回調査時の△20.0から引き続き水面下での推移となっている。また、「3ヶ月前」と比べて「業況」、「受注状況」、「外注発注量」が「好転」した企業はなく厳しい環境となっている。住宅エコポイントが「平成23年度第3次補正予算」で復活したものの、ポイントが半減したこともあり着工戸数等への大きな影響はみられない。

●建築工事

諏訪地方の平成23年12月の新設住宅着工戸数は90戸と前年同月の103戸に比べ△13戸（△12.6%）の減少となった。また、平成23年4月～12月の累計着工戸数は861戸で前年同期累計比では+79戸（+10.1%）の増加となっている。なお、長野県全体の平成23年12月の新設住宅着工戸数は913戸で前年同月の1,052戸に比べ△139戸（△13.2%）の減少となった。

●公共工事

1月に地元業者が受注した県関係の公共工事は14件136百万円であった。また、平成23年4月～平成24年1月の累計契約は166件3,126百万円と前年同期累計比で件数は△11件、契約金額は△729百万円の減少となった。

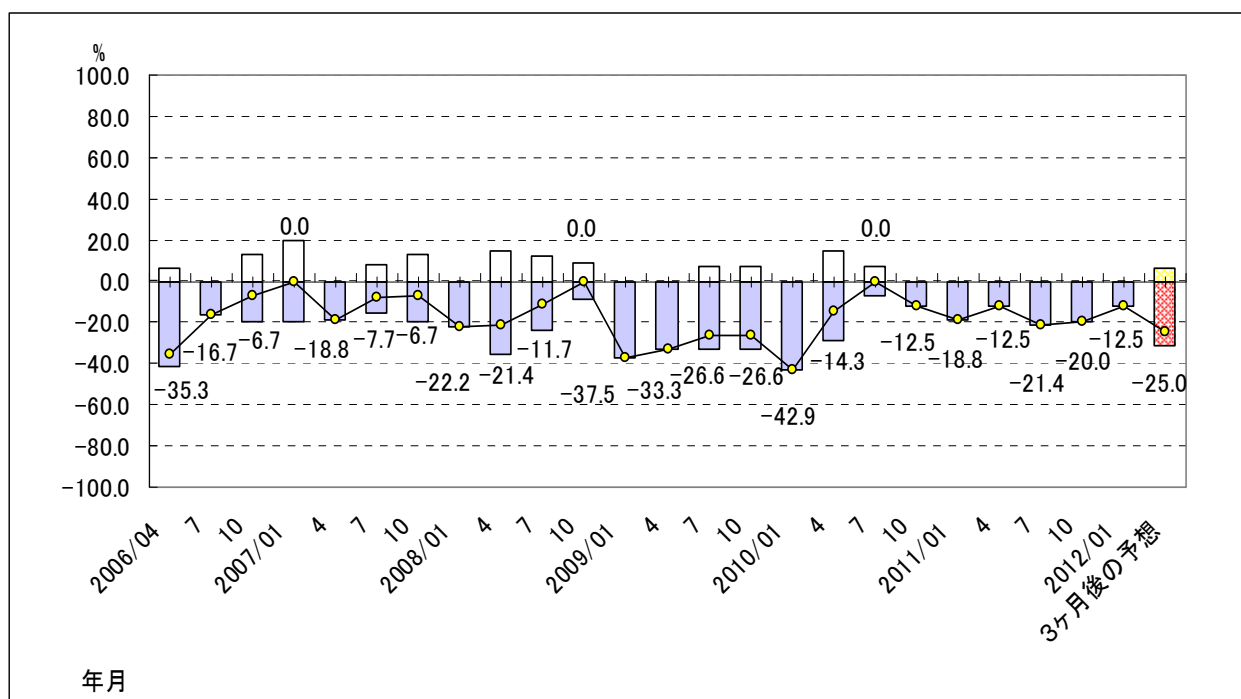
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	6.3	56.3	37.5	-31.2	16	6.3	62.5	31.3	-25.0
受注状況	16	0.0	62.5	37.5	-37.5	16	6.3	43.8	50.0	-43.7	16	12.5	37.5	50.0	-37.5
外注発注量	16	0.0	68.8	31.3	-31.3	16	6.3	43.8	50.0	-43.7	16	12.5	31.3	56.3	-43.8

●建設業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



4. 収益性状況

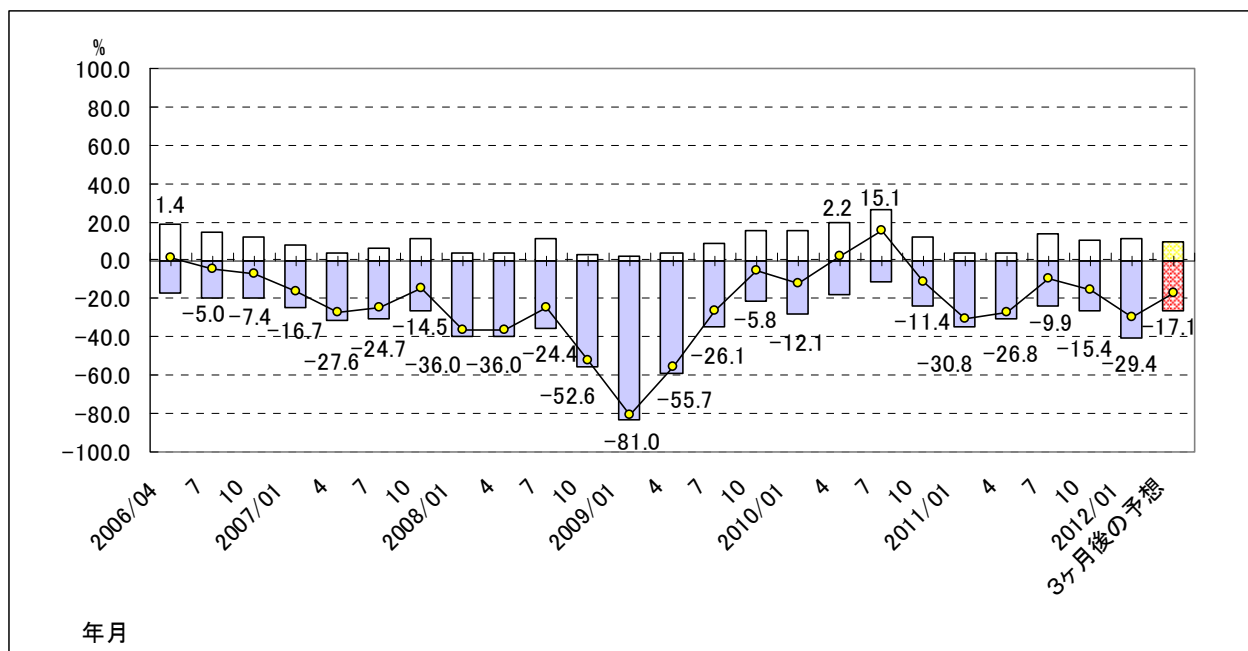
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 7.7%、「悪化」企業 39.8%で、同D Iは△32.1と前回調査時の△15.4から 16.7ポイントの悪化となった。

製造業の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 10.9%、「悪化」企業 40.3%で同D Iは△29.4と前回調査時の△15.4から 14.0ポイント悪化した。一方、「3ヶ月後」の収益性予想D Iは△17.1と「横這」企業の割合が 64.3%と最も多いものの、前回調査時の△27.9から幾分改善した。

非製造業の「3ヶ月前」と比べた同D Iは△38.5と、観光・サービス業での落ち込みを主因に前回調査時の△15.4から 23.1ポイント悪化した。

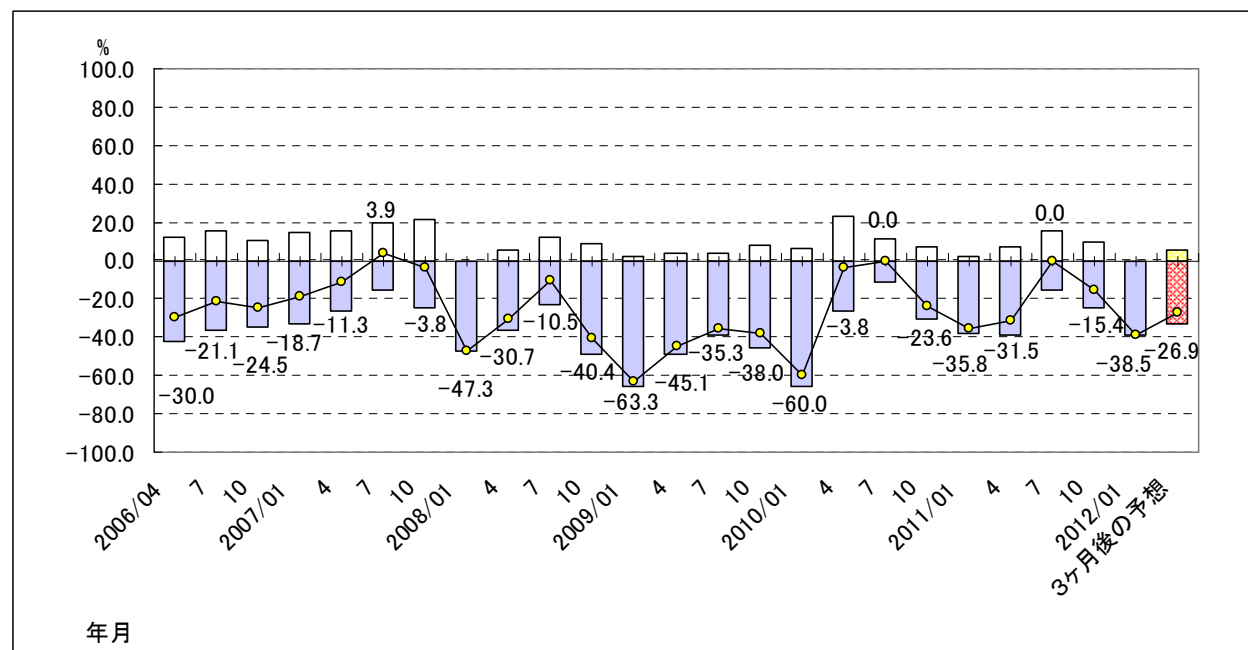
●製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー11



●非製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、②商業は、売上減少、競争激化、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、単価引下げ、資金繰りがあげられている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	112	79	11	9	13
単価引下げ	47	34	3	2	8
競争激化	49	31	7	8	3
資金繰り	42	26	3	5	8
人件費	33	23	4	1	5
労働力確保	15	12	0	0	3

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【12月】	ハローワーク諏訪	0.76倍	+0.18ポイント	
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	8,219枚	△255枚	
	金額	11,850百万円	+152百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	5枚	△9枚
	金額	1,837千円	△6,895千円	
電力使用量【1月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	86,238 MWh	△3.1%	
	高压電力計	99,680 MWh	△7.9%	
	合計	185,918 MWh	△5.7%	
車庫証明取扱件数【1月】(諏訪地方合計)		885件	+10.1%	
新設住宅着工戸数【H23.4~12】(諏訪管内)		861戸	+10.1%	

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

①調査期間 平成24年1月末

②調査内容 「平成24年1月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想

③調査方法 アンケート調査(回答数 下記⑦)及びヒアリング調査(約130社)

④対象地域 諏訪地域全域

⑤業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業

⑥回答企業数 181企業

⑦回答率 67.8%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	200	20	20	27	267
回答数	129	15	16	21	181